

2006年10月11日
MR/J38/06



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

国連大学 国際防災オープンフォーラム 「災害に強い社会づくりを目指して」 10月19日(木)

内容: 国連大学 国際防災オープンフォーラム
「災害に強い社会づくりを目指して」防災教育と持続可能な開発を考える
日時: 2006年10月19日(木) 14:00~17:30
場所: UNハウス3階 ウ・タント国際会議場 (東京)
主催: 国連大学、内閣府、国連国際防災戦略事務局、国連教育科学文化機関
(UNESCO)、世界銀行、アジア防災センター (ADRC)

背景:

- 災害リスクの危険性は、自然災害が、物質的、社会的、経済的、そして環境面における脆弱性と相互に作用した際に高まり、特に貧困層の人間の尊厳、生活、そして生命そのものに、大きな影響を与える。
- 国連、世界銀行および保険業界の報告によると、自然災害は、容認し難いほど多くの命や経済的打撃を世界中で与えている。この問題を解決するためには、短期的のみならず、長期的な戦略が不可欠である。
- 2005年に168カ国により承認された「兵庫行動枠組」(2005-2015)では、国やコミュニティが抵抗力を高めることを最も重要な課題とし、自然災害が、災害に発展しない事を、目標に掲げている。

イベント情報:

- 本フォーラムでは、自然災害をが災害を引き起こす可能性を最小限にとどめるための、教育、インフラ、開発、そして、コミュニティの役割について、専門家があらゆる可能性について、議論/検討する。
- 講師は、ハンス・ファン・ヒンケル国連大学学長、ムハマッド・サイドゥール・ラーマン バングラデッシュ防災センター所長、マリボンヌ・プレシ・フレサール世界銀行交通都市計画局長。
- パネリストは、国連大学学長を除く上記講師他、バダウィ・ルーバン UNESCO 防災担当チーフ、幸田シャーミン国連広報センター所長、鈴木弘二 アジア防災センター所長、安井至 国連大学副学長。
- プログラムは、以下参照 http://www.adrc.or.jp/events/octoberforum/October_Forum_J.htm
- ウェブキャストにて、本フォーラム閲覧可能。 <http://c3.unu.edu/videoportal/?108>。

同時通訳あり

取材をご希望の方は、お席をご用意させていただきますので、国連大学広報部、担当：谷野（やの）
(TEL:03-5467-1311、; e-mail: media@unu.edu) までご連絡下さい。

MEDIA ADVISORY